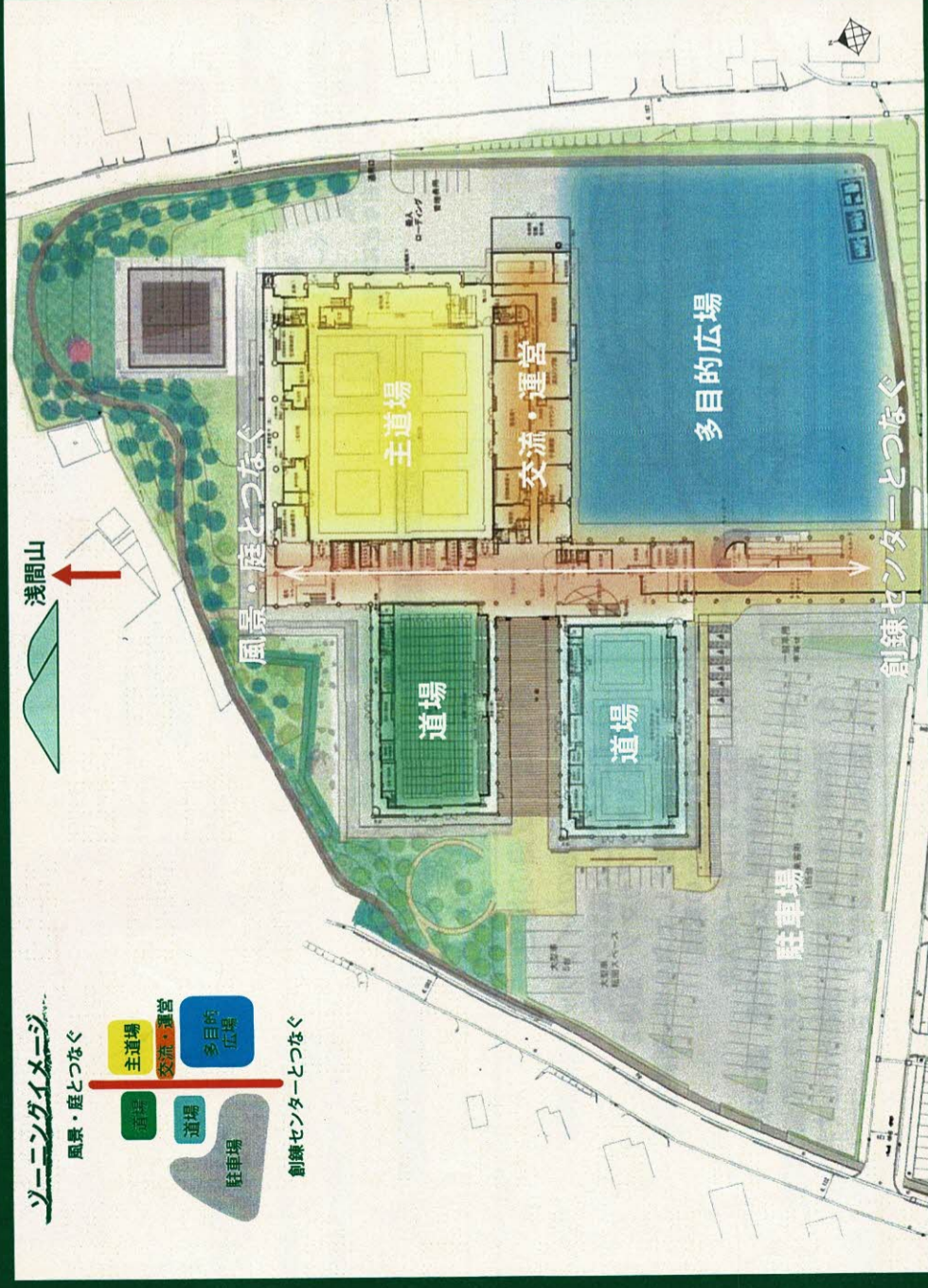


施設の背景に浅間山を望む南側からの鳥観



案内図 S=1:75,000



配置図 S=1:1,600

【建築概要】

事業主	長野県
敷地	長野県佐久市須久保字野間窪 (佐久市駒場公園の一部)
設計・監理	環境デザイン・宮本忠長JV 建築: 環境デザイン研究所、宮本忠長建築設計事務所 構造: 金野構造設計事務所 設備: 森村設計
造園・外構	環境デザイン研究所、フレイスメディア
施工	建築: 佐藤・竹花組JV 電気設備: 信州電機 弱电設備: 協栄電気興業 空調設備: 浦安工業 衛生設備: 竹内設備 地中熱設備: 角藤 舞台機械設備: サンケン・エンジニアリング 舞台照明設備: 松村電機製作所 舞台音響設備: ヒビノアークス
構造	RC造、一部S造、一部W造
規模	地上2階

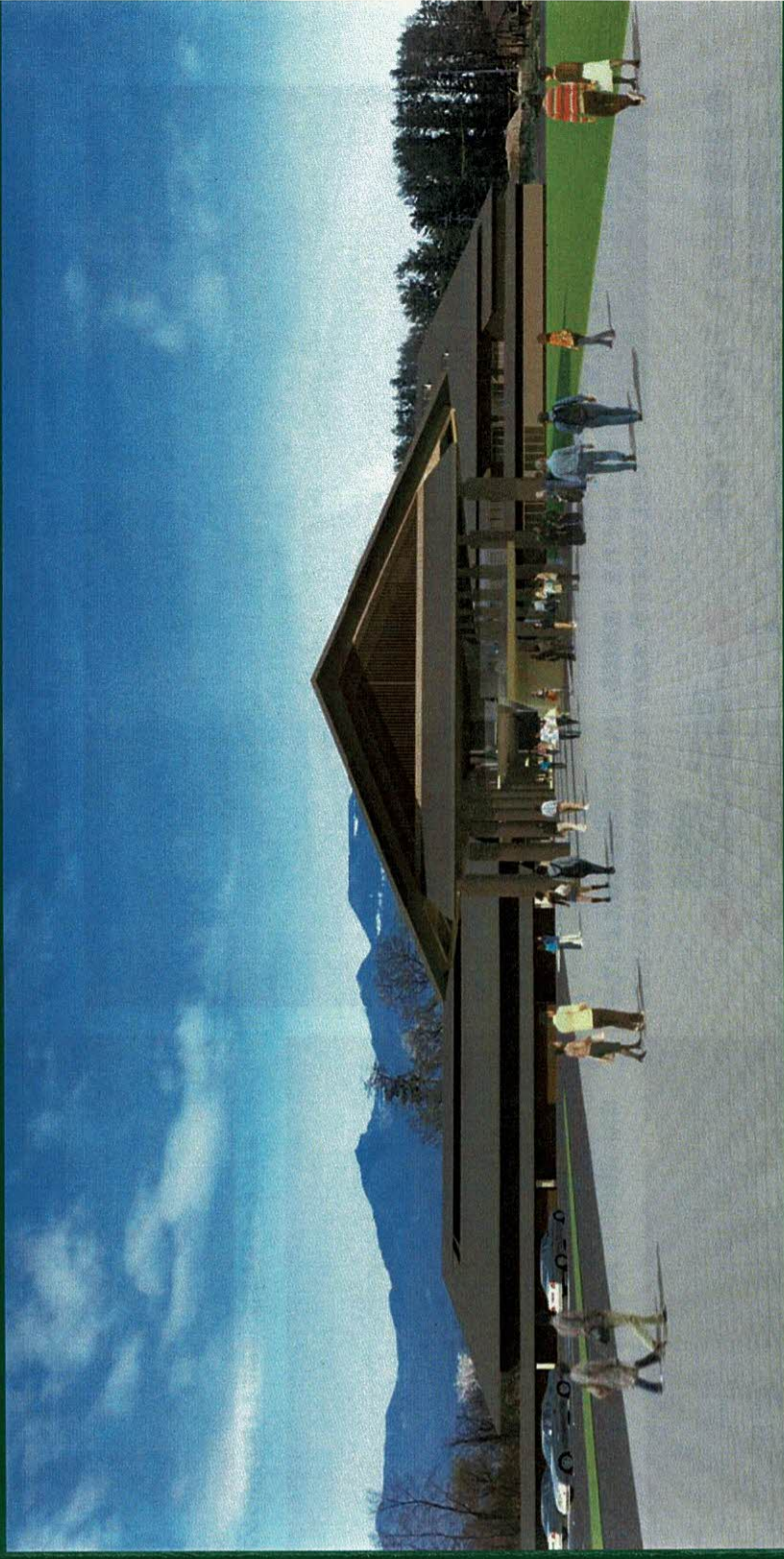
面積	敷地: 34,500㎡ 建築: 10,720㎡ 延床: 12,400㎡								
機能	<table border="1"> <tr> <td>主道場 (板張り)</td> <td>面積: 2,200㎡ (柔道場6~9面可) 観客席: 1,500席</td> </tr> <tr> <td>道場1 (畳敷き)</td> <td>面積: 880㎡ (柔道場3面可) 観客席: 200席</td> </tr> <tr> <td>道場2 (板張り)</td> <td>面積: 880㎡ (剣道場3面可) 観客席: 200席</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>会議室、師範室、器具室、シャワー室等 全館冷暖房設備、防音設備等</td> </tr> </table>	主道場 (板張り)	面積: 2,200㎡ (柔道場6~9面可) 観客席: 1,500席	道場1 (畳敷き)	面積: 880㎡ (柔道場3面可) 観客席: 200席	道場2 (板張り)	面積: 880㎡ (剣道場3面可) 観客席: 200席	その他	会議室、師範室、器具室、シャワー室等 全館冷暖房設備、防音設備等
主道場 (板張り)	面積: 2,200㎡ (柔道場6~9面可) 観客席: 1,500席								
道場1 (畳敷き)	面積: 880㎡ (柔道場3面可) 観客席: 200席								
道場2 (板張り)	面積: 880㎡ (剣道場3面可) 観客席: 200席								
その他	会議室、師範室、器具室、シャワー室等 全館冷暖房設備、防音設備等								

※内容は計画時のため、今後変更する場合がございます。

環境デザイン研究所  
〒105-0032 港区六本木5-12-22  
TEL: 03-5575-7171 FAX: 03-5562-9928  
<http://www.ms.edi.co.jp>

# 長野県立武道館

2020年春竣工予定

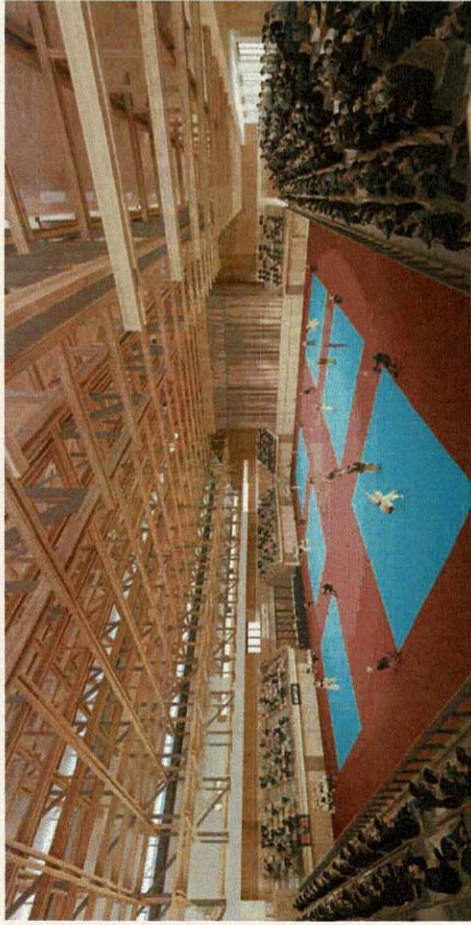


## 武道の聖地

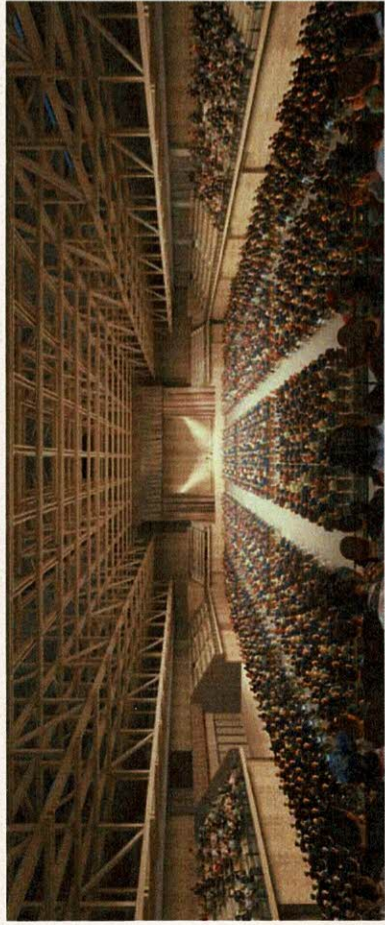
—長野県のスポーツによる地域振興の中核的拠点となる施設—

長野県の武道振興の中核的拠点となる施設として、佐久市の創錬の森敷地内に計画された。北に浅間山、南に入ヶ岳を望み、豊かな自然に囲まれた敷地条件を活かした、武道と日本の自然が一体となるような「凛としたたたずまいをもつ武道館」をめざしている。敷地の南北に浅間山に向かう交流軸を設け、その両側に主道場、柔道場と剣道場を低層で配置した。それぞれの道場間には、回廊や中庭や交流ロビーを配置し、相互に独立しながらも交流が生まれるような日本的な中間領域を設けている。地元のカラマツを中心とした県産材を多用し、主道場の屋根架構は鉄骨と木造のハイブリット構造を採用している。主道場は多目的アリーナとしても利用できる施設設備としている。スポーツによる地域振興の拠点と国際化した武道の聖地がめざされている。

設計期間 2016年12月～2017年11月  
工事期間 2018年7月～2020年1月(予定)  
2020年3月供用開始予定



武道に特化した床性能を持ち、1,500席の固定席を備えた主道場（武道大会）



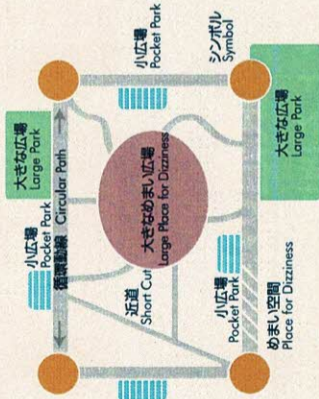
平土間とあわせて3,000人規模のイベントに対応できる主道場（音楽イベント）

## 意欲を喚起する空間 遊環構造理論の応用

意欲を喚起するスポーツ施設には共通する魅力があります。雰囲気楽しく、回遊でき、変化に富んだ空間が体験できるというものです。私たちはそれを「遊環構造」という空間構造理論によってモデル化していますが、本施設でもその理論を適用しています。

### ● 遊環構造のモデル図と7条件

- ① 循環機能があること
- ② その循環（道）が安全に変化に富んでいること
- ③ その中にシンボリック性の高い空間、場があること
- ④ その循環にめまいを体験できる部分があること
- ⑤ 近道（ショートカット）があること
- ⑥ 循環に広場などが取り付いていること
- ⑦ 全体がポラスな空間で構成されていること



地産材をふんだんに使用した刺道場



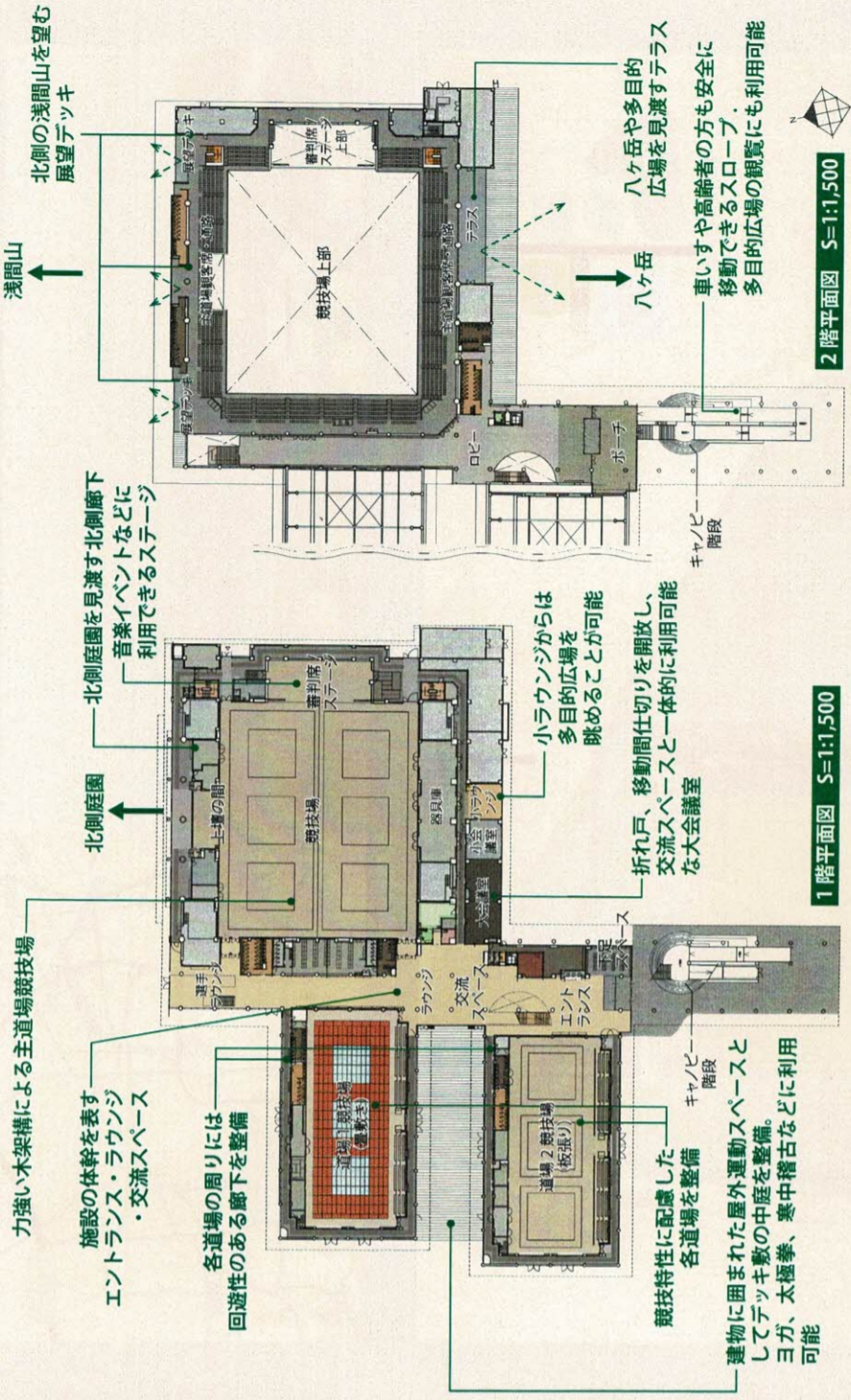
キャノピーからの架構が連続する2階エントランス



南北に視線が抜け、丸柱の列柱が並ぶ1階エントランス

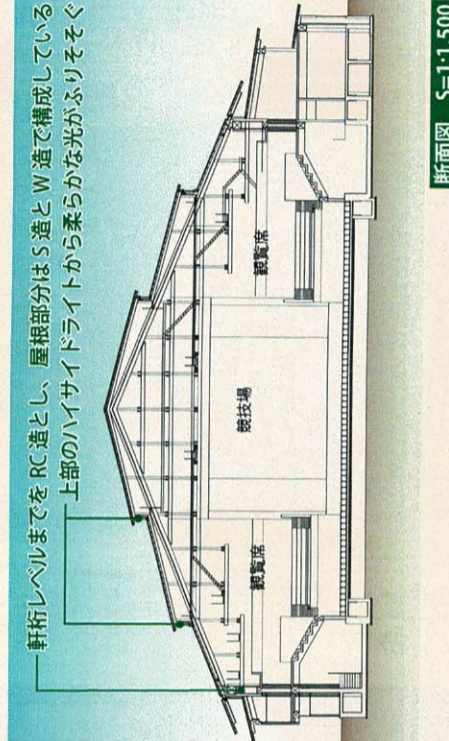


利用者同士の様々な交流が生まれる交流スペース



1階平面図 S=1:1,500

2階平面図 S=1:1,500



断面図 S=1:1,500

### ● 構造・設備の特色

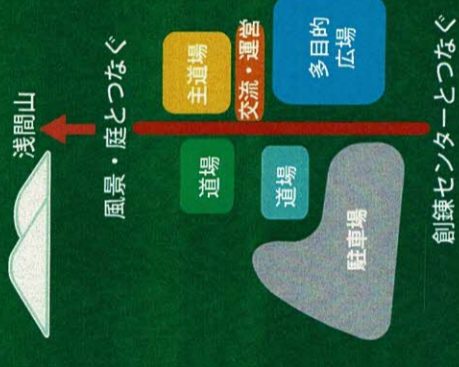
- (1) S造とW造のハイブリッド屋根架構
- (2) 武道に適した床材の選定  
主道場：アカマツ 道場2：杉
- (3) 高断熱仕様としエネルギー消費抑制  
ZEB-Readyの実現
- (4) 自然エネルギーの活用  
地中熱利用、太陽光発電、雨水利用
- (5) コンサート等が開催できる舞台設備を設置
- (6) 災害時に物資拠点及び避難所として利用可能
- (7) 遊びにくる武道館としてミュージアム機能を設置

## 武道の聖地 一長野県の武道振興の中核的拠点となる施設

### ● 武道の伝統を継承し、次世代につながるデザインコンセプト

- ① 凛としたたたずまいをもつ武道館  
武道の持つ「力強さ」と「やさしさ」建築空間として表現
- ② 匠道を尊重した建築  
日本の伝統的な匠道を基本とした、匠の精神をもつ空間デザイン
- ③ 武道を中心とした空間  
武道の競技特性をふまえた床材の選定、木の格子を連想する屋根架構の採用など、武道を中心とした建築空間とつづらえ
- ④ 交流性の高い空間  
「もてなし」や「対面」を重視した古来の日本建築のように、多くの人を招き入れ、気軽に立ち寄ることが出来るアクセシビリティ（近接性）や人々の交流性の高い武道館
- ⑤ 体幹性をもつ空間  
日本の武道に重要な要素である「背筋が伸び、体幹がしっかりしていること」。そのような明快な空間構成
- ⑥ 国際的な発信性をもつ建築としての武道館  
「礼に始まり、礼に終わる」武道の心得が世界に広がるような、規律のある空間計画
- ⑦ 日本文化を発信し、体感できる場としての武道館  
武道とともに茶道、華道、書道、芸能など日本の文化を築きめる建築
- ⑧ 武道関係者のみでなく、幅広く県民に武道の魅力を発信する拠点  
武道に直接関係がないビジターにも、さまざまな武道を紹介し、その魅力を発信する武道ミュージアム機能を備える

### ● ゴーニングイメージ



### ● 地域に開かれ、周辺施設と連携し、一体的に利用できる施設

- ① 新たな都市の起爆剤となる武道館  
商業拠点としての佐久平駅周辺に対して、「教育・文化・運動」の拠点として本施設周辺を位置づけることで、新たな街づくりを提案します。
- ② 地域の緑の拠点となる武道館  
駒場公園から続く広大緑地形成の一環として、外部空間の緑地形成に努めるとともに、武道館に特徴のある固有の庭を設けることで、独自性をもつ緑の拠点としてより親しまれ利用される地域を形成していきます。
- ③ 市民創縁センターとの連携  
大規模な大会やイベントでは創縁センターと一体的に利用できるように、エントランスには屋根付廊を設置し、雨天時やバリアフリーにも配慮した連携ができる建築とします。また、駐車場利用も相互に補完しやすしい配置、動線に配慮します。